

# いしづち

愛媛労災病院広報紙第6巻第2号

(通巻第43号)

2008年4月5日発行

発行人: 病院長 篠崎文彦

## 【愛媛労災病院の理念】

当院は働く人々のために、  
そして地域の人々のために  
信頼される医療を目指します



## 転機の年

事務局長 原田 悟悦

平成19年11月に赴任して参りました。四国の地での勤務は初めてのことであり、北国(秋田県能代市)出身の私にとっては、過去の勤務地を含めましてもこれまでの人生の中で一番暖かい冬を過ごさせてもらいました。それにいたしましても、私の頭の中には四国には雪が降らないという強いイメージがありましたが、この冬は何度となく雪を見る結果となり、勝手な先入観は瞬く間に覆されるとともに、病院の窓から見える雪化粧した石鎚山脈の美しさに日々感動させられました。

そして、病院の前を流れる国領川の河川敷運動公園や穏やかな瀬戸内海に面した海辺沿いは絶好の散策コースであり、休日にはジョギングやウォーキングで汗を流しながら楽しんでおります。また、河川敷運動公園の土手沿いには多くの桜の木が植えられており、この春は是非満開の桜の下で花見をしたいと考えております。

さて、当院は昭和31年4月の診療開始以来、地域や患者さまの多様な医療ニーズに応えるため、増改築、医療機器の整備及び診療体制の充実等を行いながら、勤労者医療はもとより地域医療を積極的に実践してきました。この結果、現在では18診療科、病床数306床を有するまでに発展し、平18年には開院50周年を迎え、現在60周年に向けて歩を進めているところであり

ます。

また、平成16年4月から労働福祉事業団から労働者健康福祉機構となり、平成20年4月には第一期中期目標期間の最終年度を迎えますが、この期間においても新医師臨床研修制度、行政・医療制度改革や過去に類を見ない診療報酬改定等々により医療機関を取り巻く環境は大きく変化するとともに、一層厳しさを増しております。不本意ながら、ここ数年はこの荒波の中で苦しんでいる状況にありますが、何としてもこの危機的状態に歯止めをかけ、良い方向に転じなければならぬと考えております。

そこで、当院の平成20年度につきましては、① 将来に向けた投資を可能にするための収支改善(経営基盤の確立)、② 医師確保と病診連携、救急受入態勢の充実(活発な医療活動)、③ 化学療法の充実や特定健康診査、特定保健指導等への対応(新たな取組)、④ 経営目標、計画の周知と共有化(意識改革)の4項目をスローガンに掲げ、この目標を確実に達成するために職員が一丸となって頑張っていきたいと考えております。それが、当院の理念である「働く人々と地域の人々に信頼される医療」の提供にも繋がっていくものと思いますので、引き続き地域の皆様のご理解とご協力、関係機関のご指導とご支援の程よろしくお願い申し上げます。

## 院内・中四国 TQM 大会

栄養管理部 西 麻希

2月18日(月)に、職員教育・研修委員会が初めて主催する院内 TQM 大会が開催されました。演題は、① 脳梗塞急性期治療(脳神経外科部長・福井)、② ゴミ仕分け大作戦(看護部・永江)、③ 紙の無駄遣いをなくそう(医事課・鈴木)、④ 書類の記入誤り、記入漏れをなくそう(医事課・橋本)、⑤ オーダリングシステム導入による検査業務の変化(検査科・藤井)、⑥ リハシステムの効果と課題(リハ科・近藤)でした。演者の方々の熱意ある発表やその後の活発な議論があったにもかかわらず、座長の先生方のスムーズな進行のお陰で予定時間を越えることなく、院長、副院長を含む121名の出席を得て盛会裏に終えることができました。

後日集計したアンケートでは、「他部門の業務について新しく知ることができた」、「連携をとることの重要性がわかった」、「発表部署は当番制にした方がよい」、「経費削減のため資料の事前配布やアンケート用紙のあり方を見直した方がよい」等々のご意見がありました。今回の演題は経費削減や算定漏れの防止に関するものが多かったので、経営改善に対する関心を高める機会の一つになったのではないかと思います。

このアンケートでの投票で「脳梗塞急性期治療」と「ゴミ仕分け大作戦」の2題が多数の票を得たため、

3月1日に中四国 TQM 大会(神戸労災)で発表しました。中四国大会での発表は愛媛労災の他、山陰労災、神戸労災、岡山労災で、発表内容は、「算定漏れ防止のための OP 箋の見直しや具体的金額を明記したコスト一覧表の作成」、「点滴ミキシング時に他の対応ができないことを知らせるゼッケンの着用」、「検査科による時間外異常値対応マニュアルの作成」などがあり、病院業務の質向上に取り組む上でとても参考になりました。

来年の中四国 TQM 大会は平成21年3月7日に山陰労災で開催される予定です。近くには皆生温泉もあるので、興味のある方は是非足を運んでみて下さい。



## 看護研究

毎年、看護部では、看護の質の向上を目指して看護研究発表研修会を行っています。昨年の発表演題の中からは「母性看護：北4；産後1カ月の母親の思い(前橋)」、「成人看護Ⅱ：北7；口腔アセスメントシートを使用して(福井)」、「日本看護手術学会：脊椎手術の除圧用具選択基準ツールを導入しての成果(金沢)」、「日本職業・災害学会：手術室における効果的な火災非難訓練の実際(名古屋)」の4題を愛媛県や全国の学会で発表しました。

今年度の院内の看護研究の発表は、2月23日(土)に行われ、100名近い看護師が参加しました。日々の看護の中から起こった疑問に対する質的研究が多く、現場に活かすことができる内容の発表でした。非常に活発な質疑応答もあり、有意義な時間を過ごすことができたという意見が多く聞かれました。看護研究を行うための支援は、労働者健康福祉機構本部主催の研修を受講した看護師による指導と外部講師(愛媛大学・地域看護学教授の西嶋真理子先生)による指導を行って

います。看護ケアの質向上において臨床研究の意義は大きく、看護部の現任教育の中でも力を入れています。臨床から生まれた貴重な研究は、その成果が妥当と判断されたものは、日々の看護の中でも活用されています。毎日の業務の中大変なことも多いのですが、看護研究を行うことで得るものもたくさんあり、みんな頑張っています。



### 地域医療連携室リニューアルのお知らせ

この度愛媛労災病院地域医療連携室が新しくなりました。室長は今までと同じく、友澤副院長が担当し、医事課員も今と同じく塩見が担当いたします。今回から新しく、看護師 (1 名は専任、1 名は訪問看護と外来を兼任)、MSW が加わり、より一層利用しやすい環境になりました。

業務内容も、地域の医療機関からの紹介患者の受付だけにとどまらず、地域医療機関への転医を円滑に行うための医療連携業務の充実を図ってまいります。また看護師が配置になったことで、在宅療養の看護相談業務も行ってまいります。

最後に、今後も当院主催の勉強会なども行いますので、皆様のご参加をお待ちしております。今後ともよろしく願いたします。



### 雛飾り

医事課 橋本 直子

2 月下旬から 3 月 4 日まで薬局前ホールにお雛さまが飾られていましたが、みなさんご覧いただけましたでしょうか。7 段飾り 15 人揃えの大変立派できれいな雛飾りでした。核家族化や住宅事情等で色々なタイプの雛飾りがありますが、やっぱり 7 段飾り 15 人揃えは見応えがあります。

さて、みなさんは 3 月 3 日、桃の節句の由来をご存知でしょうか。

桃の節句の起原は平安時代に遡ります。昔の日本には五つの節句 ( 人日、上巳、端午、七夕、重陽 ) があり、当時この行事は貴族の間では、それぞれ季節の節目の身のけがれを祓う大切な行事でした。その中の一つ「上巳 ( じょうし ) の節句」が後に「桃の節句」となります。平安時代、上巳の節句の日には人々は野山に出て薬草を摘み、その薬草で体のけがれを祓って健康と厄除けを願いました。この行事が、後に宮中の紙の着せかえ人形で遊ぶ「ひいな遊び」と融合し、自分の災厄を代わりに引き受けさせた紙人形を川に流す「流

し雛」へと発展してゆきます。室町時代になるとこの節句は 3 月 3 日に定着し、やがて紙の雛ではなく豪華なお雛さまを飾って宮中で盛大にお祝いするようになりました。その行事が宮中から武家社会へと広がり、さらに裕福な商家や名主の家庭へと広がり、今の雛祭りの原型となっていったそうです。来年も素敵な雛飾りを見たいものです。



平成20年3月31日付退職者及び転勤者

副院長  
薬剤部長  
北7階病棟師長  
医事係長  
会計課事務員  
外来准看護師  
洗濯室(嘱託)

定年退職

森重一郎  
平松龍磨  
近藤利子  
秋月貴  
加藤正雄  
加藤恒子  
黒河広子

辞職

原田希  
上田修史  
野村真治  
高見太郎

循環器科副部長  
泌尿器科副部長  
外科医師  
内科医師

外来看護師  
歯科衛生士  
南4階病棟看護師  
北7階病棟看護師  
南4階病棟看護師  
総務課事務員  
検査助手(嘱託)

大西八重子  
永易啓子  
齋藤裕子  
井門真由美  
中田真咲  
平田千恵  
十河ノリ子

転勤

看護部長  
看護副部長  
総務課長  
医事課長  
リハ科技師長  
総務課事務員  
南6階病棟看護師

岡本民子 → 燕労災病院  
西村百合枝 → 岡山労災病院  
楠本英行 → 大阪予防医療センター  
前田勝治 → 島根産保センター  
上田利一 → 岡山労災病院  
脇本隆史 → 富山労災病院  
近江広美 → 関西労災病院

地域医療連携室から

愛媛労災病院では、本年1月より地域医療連携室をリニューアルしました！

医療連携室は地域の医療機関様、福祉施設様の窓口となります。

① 紹介された患者様が円滑に入院、診療を受けることができる。

② 紹介元の医療機関へ、紹介患者さんの診療情報をお届けできる。

以上のことを目標に調整、援助を行い、より良い医療・福祉連携の確立を目指しています。

ある文献を拝見致しましたところ、経済成長と連動する保険医療対策を採るわが国では、低成長期に入った経済活動から十分な医療費の捻出は限界にきており、医療提供の効率的な運用に関して様々な政策指針が示されておりました。また、疾病構造も生活習慣病を主体とし原因とするもの、さらには合併症として存在する場合などいくつかの疾病、病態が混在する場合が少なくありません。これは高齢者になるほど顕著で、高齢化が進む地域ではより留意すべき事象であります。

病診連携室内にあっても、複数の診療科の協力なくしては医療の遂行が困難な場合に少なからず遭遇しております。当病院においても、各科の協力、連携、地域医療における患者様の病態に依りての各医療機関の協力と連携を通じ、地域完結型の医療を進め、これまで以上の病診連携の必要性が要求される時代であります。よって、紹介・逆紹介を通じての地域医療連携を密接なものにするために、紹介状の重要性をより一層高めていきたいと思っております。

【ちょっと一息】

堅いお話から少し頭をほぐして雑学でも如何でしょうか？

もうすぐお花見のシーズンであります。花を見て楽しむという風習は、そもそもは中国詩文からきており、平安貴族が歌を詠む対象として桜を鑑賞したのが、お花見の始まりだそうです。ちなみに、桜が鑑賞されるまえには唐文化の影響で梅の花が貴族たちの好みであったようで、万葉集では、梅の花を詠んだ歌が桜の歌の三倍以上あります。ご存知でしたか？

たまには、色んな雑学を覚えていくことも頭の体操かなと思います。

(地域医療連携室 塩見)

編集後記

ナビに誘導されながら前任地から約1,200キロメートルの旅。国領川の河川敷に咲き誇る桜の出迎えを受け、新居浜の地を踏んで2年が過ぎようとしています。

近畿・中四国労災病院ブロック会議、開院50周年記念式典、竹内正也先生、邊見公雄先生を迎えての50周年記念特別講演会。おまけに、監事監査、監査法人による施設往査、眼科、透析の問題と、私にとっては激動の2年間でした。

しかし、個人的には四国の地で暮らしているメリットを

最大限に生かして、八十八カ所巡礼を敢行。ここでもナビを頼りに1行程につき5～6カ寺を目標に、結果として四国一周ができてとても満足しています。1番霊山寺から遍路を始め88番大窪寺で結願。1番札所にお礼参りをし、昨年11月23日に結願報告のため高野山奥の院へ参拝しました。桜の季節を迎え、4月から新任地での勤務となります。「朝のこない夜はない。春のこない冬はない」と申します。新たな年度を迎え、愛媛労災病院の輝く未来を信じて志を持ち続けていただきたいと思います。(H.K.)

広報紙編集メンバー：病院長(篠崎文彦)、副院長(友澤尚文)、医局(稲見康司、佐藤晃)、看護部(西村百合枝、高橋美保、泉敦子、山根千春)、総務課(楠本英行、山内正)、医事課(橋本直子、塩見誠理)、薬剤部(佐々木優子)、放射線科(正岡憲治)、検査科(阿南孝志)、リハ科(小川進太郎)、栄養管理部(清水亮)